

(議案第1号)

平成26年度事業報告について

項 目	内 容
1 世界遺産登録への取り組み状況	<p>(1) 松本市は平成18年11月30日、長野県と共同で、国連教育科学文化機関（ユネスコ）に提出する世界遺産登録の国内候補を載せた「暫定一覧表（リスト）」に、国宝松本城を推薦する提案書を、文化庁に提出した。</p> <p>(2) その後、文化庁の審査で「継続審議案件」となり、平成19年12月再提案書と検討状況報告書を提出し、「姫路城を中心とした日本の近世城郭群」で研究を進めることを報告し、平成20年3月、世界文化遺産特別委員会ワーキンググループのヒアリングを受けた。</p> <p>(3) また、平成20年1月、2月には、松本市長と彦根市長・犬山市長の間で今後「近世城郭群」で研究を進めることの合意が得られ、3月に事務レベル会議を実施した。</p> <p>(4) 平成20年9月には、文化庁文化審議会文化財分科会世界遺産特別委員会から「カテゴリーI b」に該当という審議結果を受けた。</p> <p>(5) 彦根市、犬山市と国宝四城等の近世城郭群での研究を進めるとともに、文化庁からの課題である「城郭及び城下町等の世界的視野での普遍的価値」について研究を進めてきた。</p> <p>(6) 平成25年度から、国宝松本城天守に係る顕著な普遍的価値の証明のための調査研究を実施した。</p>
2 松本城関係文化財の保護活動	<p>(1) 平成27年3月に「国宝松本城天守保存活用計画」を策定した。</p> <p>(2) 南・西外堀復元に向けた史跡松本城の追加指定を実施した。</p>

	<p>(3) 開発事業等に伴い、松本城三の丸跡土井尻の1カ所について、発掘調査を実施した。</p> <p>(4) 市重要有形民俗文化財「松本城下町の舞台（宮村町1丁目）」の修復事業に対する補助金の交付を実施した。</p> <p>(5) 松本市立博物館において、特別展「松本城下町の繁栄・祈り・信仰 -天神様400年-」を開催した。</p>																																				
<p>3 啓発・PR活動</p>	<p>(1) 松本城検定クイズの実施 市内小学校で国宝松本城についてのクイズ形式による出前授業を行い、松本城への興味を持つきっかけづくりを行った。</p> <table data-bbox="686 862 1404 1131"> <tr> <td>9月22日</td> <td>安曇小学校</td> <td>3年生</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>10月3日</td> <td>山辺小学校</td> <td>3年生</td> <td>82名</td> </tr> <tr> <td>10月8日</td> <td>今井小学校</td> <td>3年生</td> <td>27名</td> </tr> <tr> <td>10月15日</td> <td>中山小学校</td> <td>3年生</td> <td>21名</td> </tr> <tr> <td>11月7日</td> <td>鎌田小学校</td> <td>3年生</td> <td>152名</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>合計5校 289名参加</td> </tr> </table> <p>(2) 松本城・旧開智学校写生大会、展覧会への協賛 松本市教育委員会などの主催。写生大会は9月28日（日）に実施。展覧会は平成27年1月23日から28日まで、応募作品532点を「井上百貨店」で展示した。</p> <p>(3) 松本城親子見学ツアーの実施 松本城に興味や関心を持つとともに、より身近に感じてもらうことを目的に、天守内各所に係る不思議や伝説的な内容を中心にした問題を、見学しながら親子一緒に解答する「国宝松本城七不思議」親子探検ツアーを実施した。</p> <table data-bbox="734 1713 1420 1848"> <tr> <td>第1回</td> <td>10月25日（土）</td> <td>13組</td> <td>27名</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>11月22日（土）</td> <td>16組</td> <td>32名</td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>合計 29組 59名参加</td> </tr> </table> <p>(4) 「名古屋城本丸御殿復元事業」見学会の実施 「国宝松本城」の世界遺産登録へ向け、実行委員会会員のより理解を深めるため、名古屋市の「名古屋城</p>	9月22日	安曇小学校	3年生	7名	10月3日	山辺小学校	3年生	82名	10月8日	今井小学校	3年生	27名	10月15日	中山小学校	3年生	21名	11月7日	鎌田小学校	3年生	152名				合計5校 289名参加	第1回	10月25日（土）	13組	27名	第2回	11月22日（土）	16組	32名				合計 29組 59名参加
9月22日	安曇小学校	3年生	7名																																		
10月3日	山辺小学校	3年生	82名																																		
10月8日	今井小学校	3年生	27名																																		
10月15日	中山小学校	3年生	21名																																		
11月7日	鎌田小学校	3年生	152名																																		
			合計5校 289名参加																																		
第1回	10月25日（土）	13組	27名																																		
第2回	11月22日（土）	16組	32名																																		
			合計 29組 59名参加																																		

	<p>本丸御殿復元事業及び隅櫓見学会」を11月26日（水）に実施。38人の参加者が、名古屋城で行われている本丸御殿復元作業の様子を見学し、名古屋市の担当者から説明を受けた。また通常は公開されていない隅櫓の内部を案内していただいた。続いて同市内の「徳川美術館」も見学した。</p> <p>(5) 岡田保良（国士舘大学教授）講演会の開催 平成27年2月22日（日）に「国宝松本城」の世界遺産登録に向けた勉強会として、岡田保良・国士舘大学教授（日本イコモス国内委員会副委員長）講演会を開催。会場のホテルブエナビスタに会員や一般市民ら約250人が参加した。岡田教授は、2014年6月に登録された富岡製糸場（群馬県富岡市）をはじめとした絹産業遺産群を挙げ「一つ一つの遺産では登録が難しくても、合わせ技によって顕著な普遍的な価値を証明することが大切」と説明。松本城も他の城との協力が不可欠とし、「それぞれの遺産の価値を具体的に規定しつつ、一体的に管理、保護していく方策も示す必要がある」とした。登録に向けては、国が推薦候補をまとめる「暫定リスト」に入る必要がある。岡田教授は登録を目指す意義について「自らの歴史や文化を再認識するほか、世界の目が集まることで国際的な感覚が醸成されるなど波及効果も大きい」と話された。</p> <p>(6) 松本城・旧開智学校絵画展優秀作品展示会主催 平成27年1月に実施した展覧会の中から、特選・金賞・銀賞・銅賞に選ばれた54点を「八十二銀行松本営業部ギャラリー」（大名町）で、3月6日（金）から4月3日（金）まで展示した。</p>
<p>4 世界遺産保護、文化財保護活動との協力</p>	<p>(1) ICOMOS（国際記念物遺跡会議）へ会員としての協力</p> <p>(2) 日本ユネスコ協会連盟の運動への協力</p>

<p>5 世界遺産にかかわる調査、研究活動</p>	<p>(1) 2013年3月に設立した(仮称)国宝四城世界遺産登録推進会議準備(3回/年)及び専門家によるワーキンググループ(2回/年)を開催し調査研究を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8回準備会 5月22日(犬山市) ・第9回準備会 10月17日(彦根市) ・第10回準備会 2月16日(松本市) ・第5回WG 7月17日(東京都) ・第6回WG 1月19日(東京都) <p>(2) ICOMOS、UNESCO(国連教育科学文化機関)等関係団体の動向調査、情報収集</p> <p>ア 平成26年6月15日～25日カタール国ドーハにて第38回世界遺産委員会が開催された。新たに26件の遺産(文化遺産21、自然遺産4、複合遺産1)が、世界遺産リストに登録され、世界遺産の数は1007件となった。(文化遺産779件、自然遺産197件、複合遺産31件)。</p> <p>イ 平成26年9月25日から10月5日にかけて、ICOMOSの調査団が、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」に入り、推薦資産を訪れた。平成27年5月にICOMOSから評価に関する発表があり、6月末の世界遺産委員会で登録可否が審議される予定。</p> <p>ウ 平成27年1月末、日本政府は「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」及び「国立西洋美術館」(「ル・コルビュジエの建築作品」の構成資産)の世界文化遺産推薦に係る推薦書(正式版)のユネスコへの提出についての世界文化遺産へ推薦すること決定した。同年秋頃、ICOMOSの現地視察が実施される予定となった。</p> <p>エ 近年、世界遺産の新規記載数を極力抑制し、専門的な評価を厳格に行う傾向にあり、新規記載は、厳しくなっている。</p>
---------------------------	---

	<p>(3) 国内他地域の動向、情報収集</p> <p>ア 既に推薦書を提出している資産</p> <p>(ア) 長崎の教会群とキリスト教関連資産 (平成19年暫定リスト掲載)</p> <p>本年1月に日本政府によりユネスコに対し推薦書を提出。本年秋頃にイコモス現地調査が実施される予定。</p> <p>(イ) 国立西洋美術館本館（ル・コルビュジェの建築作品） (平成19年暫定リスト掲載)</p> <p>本年1月に日本政府によりユネスコに対し推薦書を提出。本年秋頃にイコモス現地調査が実施される予定。</p> <p>イ 暫定一覧表掲載資産</p> <p>(ア) 武家の古都・鎌倉 (平成4年暫定リスト掲載)</p> <p>平成24年に推薦書を提出。その後、イコモスによる「不記載」の勧告を受け、世界遺産委員会に際して審議とり下げを行った。再推薦に向け新たな価値付けを検討するため、国内外の比較研究を実施中。</p> <p>(イ) 飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群 (平成19年暫定リスト掲載)</p> <p>顕著な普遍的価値（以下「OUV」という。）及び基準適用の説明文が作成されているが、価値の主張にさらなる作業が必要。遺跡全体に対して史跡等の指定範囲が限定的な資産が含まれているため、必要な追加指定等を行うことが求められている。また、それでも対処できない部分の法的担保措置をどのように確保するか、全体として一貫した法的担保措置の考え方が説明できるか等の検討（明日香法等）が求められている。</p> <p>(ウ) 北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群 (平成21年暫定リスト掲載)</p> <p>北海道・北東北の縄文遺跡群」における「縄文文化」の定義づけと、構成資産を北海道・北東</p>
--	---

北に限定する理由のわかりやすい説明ぶりが求められている。また、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が主張する「定住の達成」という極めて普遍性のあるテーマを、各構成資産との関係に基づき顕著な普遍的価値の主張として主張できる論理の明確化も求められている。

(エ) 宗像・沖ノ島と関連遺産群

(平成21年暫定リスト掲載)

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」が主張する顕著な普遍的価値における各構成資産の位置づけ、特に、津屋崎古墳群の中で新原・奴山古墳群のみが構成資産とされている理由についてのわかりやすい説明ぶりと、新原・奴山古墳群7号墳（方墳）の位置づけ（墓か祭壇か）についての学術的な調査研究が求められている。また、沖ノ島が沖合にある孤島であり無人であることを踏まえた、具体的保全方策の明確化が必要とされている。

(オ) 金を中心とする佐渡鉱山の遺産群

(平成22年暫定リスト掲載)

構成資産選択の理由（鉱山都市としての説明を行うべきか否かを含む）や国内外の鉱山との比較研究を通じた佐渡の独自性（世界遺産たる価値）の明確化が特に求められている。

(カ) 百舌鳥・古市古墳群

(平成22年暫定リスト掲載)

「百舌鳥・古市古墳群」の主張する顕著な普遍的価値の説明ぶり（特に、適用基準の力点の置き方と基準iiの適用のあり方）。同資産を百舌鳥・古市古墳群に限定する理由、さらにその中の構成資産選択の正当性、及び主墳と陪塚の関係性の説明のさらなる明確化が求められている。また、真正性の観点を踏まえた資産の年代・名称等の説明ぶりや、特に国外の同種の資産との比較検討の強化も指摘されている。

(キ) 平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群（拡張）

（平成24年暫定一覧表掲載）

「平泉」は平成23年に2回目の推薦により世界遺産一覧表に掲載されている。その際、最初の推薦時には含まれていたにもかかわらず、再推薦時に含めることができなかつた資産について、拡張登録を目指すもの。当面5カ年をかけ（平成29年度）、上記の調査研究、シンポジウム等を行う予定である。

（参考：世界文化遺産特別委員会（第1回）会議資料資料 5-1『世界遺産暫定一覧表記載資産の準備状況と課題等について』）

<長野県内>

ア 善光寺と門前町

提案書作成にあたり専門分野の有識者によるワーキンググループを編成し、信仰資産では他と類似するため、信仰を核とした寺院・宿坊群・仲見世・門前を有する「生きている善光寺門前町」というコンセプトに集約し、平成19年12月、資産の名称を「善光寺と門前町」に変更して再提案書と検討状況報告書を提出した。結果は、カテゴリーI bに該当。平成26年度は、6月に善光寺講堂にて「世界遺産セミナーin善光寺」を開催。講師に静岡県文化・観光部富士山世界遺産課の職員を招いて、世界文化遺産「富士山～信仰の対象と芸術の源泉～」について講演を実施した。

イ 妻籠宿・馬籠宿と中山道

平成19年3月南木曾町と中津川市は、両市町にまたがる資産構成内容を検討し、歴史的人物や文学作品等も視野に入れ、共同で再提案することに合意し、同年12月資産の名称を「妻籠宿・馬籠宿と中山道－『夜明け前』の世界－」に変更し両県と共同で再提案書等を提出した。結果は、カテゴリーI bに該当。平成26年度は、特に大きな動きはなし。

ウ 岡谷の製糸遺産

平成19年9月、岡谷市は「日本製糸業近代化遺産～日本の近代化をリードし、世界に羽ばたいた糸都岡谷の製糸遺産～」を新規に文化庁へ提案書を提出した。結果は、カテゴリーⅡに該当。

また、岡谷市と富岡市は姉妹都市提携しており、岡谷市教育委員会蚕糸博物館の学芸員を1名、23年度・24年度と富岡市へ派遣した。平成26年8月には、市立岡谷蚕糸博物館「シルクファクト」がリニューアルオープンした。

エ 南アルプス世界自然遺産登録推進協議会

平成20年4月、伊那市において推進協議会設立後初めての総会を開催し、世界自然遺産登録に向けた第一歩として、ジオパークへの取り組みを推進していくことを決定した。(長野、山梨、静岡3県10市町村で構成)同年7月に南アルプス中央構造地帯(長野県側)が、日本ジオパークに認定され、教育や観光の目玉となっている。また、同時に、平成15年・16年に実施した世界自然遺産登録に向けての学術調査結果をもとに、協議会は、「ユネスコエコパーク」の登録も目指すこととなった。なお、世界自然遺産(静岡市)、ジオパーク(伊那市)、ユネスコエコパーク(南アルプス市)がそれぞれ事務局を担当している。

伊那市では平成25年4月から「世界自然遺産登録推進室」を総務部内に設置した。同年9月に日本ユネスコ国内委員会においてユネスコエコパークとして推薦決定された。平成26年6月ユネスコMAB計画国際調整理事会において登録を決定された。

オ 信州黒耀石原産地遺跡群の複合遺産登録にむけた取り組み

信州黒耀石原産地遺跡群は霧ヶ峰から北八ヶ岳の一带にあり、縄文時代ここで採掘された黒耀石が関西から北東北の広範囲に流通していた。未指定の採掘遺跡、石器製作遺跡、石器流通の中継遺跡を含め、現在一か所が史跡指定されている。将来の世界遺産暫定一覧表公募に向け活動が始まっている。また、長和町では、国際ワークショップを実施して海外にも知られる

ようになっている。長和町の黒耀石体験ミュージアムとイギリス・ノリッジ市のセインズベリー日本藝術研究所が学術協定を調印しました。内容は、①博物館の学術協定調印と②国際姉妹都市提携とホームステイへの二つが柱になっており、講演会等を実施している。平成26年度は、特に大きな動きはなし。

カ 縄文を世界遺産に

国宝土偶を2体保有する茅野市では、平成25年10月に「縄文プロジェクト」を策定した。その一環で、12月に土偶（仮面の女神）国宝指定記念事業として近藤前文化庁長官の講演会を開催し、今年2月からは世界遺産登録申請に向け、本格的な検討を始めた。